

多摩市街路樹よくなるプラン改定版(素案) 改善モデル路線での改善例

表 4-4 改善モデル路線での改善例【枯衰による伐採が進められ、更新が必要】

路線名	5-1 号幹線 貝取・豊ヶ丘地区		主要樹種	ハクウンボク	樹高	9.0m
現況 (137 本)	枝張	4.0m	幹周	78cm	根元径	30cm
	植栽間隔	5.0m	歩道幅員/有効幅員	2.4m / 1.5m	植樹帯幅	0.6m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色ある樹種の導入を試みたものの、全般的に生育不良であり、多数の枯れ木が発生。枯れ木については伐採済 ・ 有効幅員が狭いため、更新の際は植樹帯配置や樹種も含めた再考が望ましい ・ 交差点端部に植栽されているケヤキの生育は良好 ・ アダプト団体数 2 ・ 現行プラン重点管理路線「⑩貝取大通り」 					
評価	I. 今後衰弱が進み、街路樹の維持が困難になる可能性が大きい					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹種転換や配置の見直しを含めた更新を図るとともに、有効幅員を確保するために、低木寄植を撤去し舗装化する（対応策 2） ※ただし撤去箇所は植栽基盤空間として確保するため、透水性舗装を検討する 					
状況写真						

基礎データは、以下のとおり（次ページ以降も同じ）

- ・ 樹高、幹周、植栽間隔：平成 27 年度台帳データの路線ごとの平均値
- ・ 枝張、根元径、有効幅員、植樹帯幅：平成 29 年度基礎調査
- ・ 歩道幅員：有効幅員＋植樹帯幅＋縁石幅（15cm×2）

表 4-5 改善モデル路線での改善例【枯衰による伐採が進められ、更新が必要】

路線名	5-109号線 落合地区		主要樹種	エンジュ	樹高	8.3m
現況 (47本)	枝張	6.0m	幹周	70cm	根元径	30cm
	植栽間隔	5.0m	歩道幅員/有効幅員	2.9m / 2.0m	植樹帯幅	0.6m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジュは成長が早く、寿命も比較的短命な樹種である ・歩道幅員が狭く樹木の成長に見合わないため、更新の際は樹種変更が望ましい ・この区間では状態が悪くなった樹木が多数見られ、既に枯れ木の伐採も実施されていることから、同じ樹種での維持は困難と考えられる 					
評価	I. 枯損木や劣勢木の危険木化の可能性が高い					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな樹冠とならない樹種への転換を図る（対応策2） ・周囲は住宅地等であり、沿道の住民に親しまれており、あまり大きくならない木の導入が望ましい ・更新の際は、有効幅員を拡げるため、低木寄植の配置や幅の見直しを行う 					
状況写真						

表 4-6 改善モデル路線での改善例【管理困難な樹高に到達】

路線名	2-50 号線	和田地区	主要樹種	ケヤキ	樹 高	17.5m
現況 (2 本)	枝 張	12.0m	幹 周	253cm	根元径	120cm
	植栽間隔	25.0m	歩道幅員/有効幅員	5.3m / 3.0m	植樹帯幅	2.0m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両通行を妨げずに一車線でおさまる規格の高所作業車で管理可能な高さ 10~12m を超えている ・ 根元径が植樹帯の幅に迫っている ・ 架線と接触する部分の枝が切除されており樹形が崩れている 					
評 価	Ⅲ. 管理次第でさらによくなる可能性					
考えられる 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理目標を設定し、樹高を下げて管理しやすくするために、切り戻し剪定を行う (対応策 2) ・ 状態が悪くなった木が多くなった段階で、更新を図る (対応策 3) 					
状況写真						

表 4-7 改善モデル路線での改善例【樹冠が植栽間隔以上に広がり隣通しの枝が接触】

路線名	1-2号幹線	関戸地区	主要樹種	サクラ	樹高	6.7m
現況 (28本)	枝張	—m	幹周	114cm	根元径	100cm
	植栽間隔	8.5m	歩道幅員/有効幅員	4.5m / 3.2m	植樹帯幅	1.0m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹冠が広がり、隣どうしの枝が接触している ・ サクラは傷から腐朽が入りやすい樹種のため、隣どうしの枝の接触は回避することが望ましい ・ 根元径が植樹帯の幅に迫っており、根上がりも発生している ・ 剪定や根上がり対策で切断した部位から腐朽が入り、衰退する可能性がある 					
評価	II. 今後、大径木化が一層進み、維持が困難になる可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根元が柵いっぱいになっている状態で、隣どうしの枝が接触し、樹勢が衰えた樹木については、伐採し、優勢な樹木を活かすようにする（対応策2） ・ 街路樹診断により健全度を明らかにし、危険木化した街路樹の早期発見を図る（対応策2） ・ 植替え樹種の検討や、衰弱木の順次更新を図る（対応策3） 					
状況写真						

表 4-8 改善モデル路線での改善例【樹冠が植栽間隔以上に広がり隣通しの枝が接触】

路線名	5-74号線 落合地区		主要樹種	クスノキ	樹高	9.0m
現況 (47本)	枝張	6.0m	幹周	94cm	根元径	80cm
	植栽間隔	5.0m	歩道幅員/有効幅員	3.3m / 2.0m	植樹帯幅	1.0m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽間隔より樹冠が広がり、一部で枯れがみられる ・ 多摩センター駅周辺のみどりを特色づける数少ない常緑広葉樹である ・ 隣接施設のみどりとの競合で劣勢となっている部分もみられる ・ 根元径が植樹帯の幅に迫っている ・ 歩道幅員が狭く樹木の成長に見合わないため、更新の際は樹種の再考が望ましい ・ アダプト団体数 1 					
評価	Ⅱ. 今後、大径木化が一層進み、維持が困難になる可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑量の適正化を図るため、間引きを行う（対応策2） ・ 隣接施設の緑と二重になる箇所については、管理者間で調整する（対応策2） ※なお、間引き箇所では隣接木の根系伸長空間として確保することが望ましい ・ 植替え樹種の検討や、衰弱木からの順次更新を図る（対応策3） 					
状況写真						

表 4-9 改善モデル路線での改善例【根元径が植栽帯幅に逼迫したり、根上がりが発生】

路線名	4-49 号線 永山地区		主要樹種	ケヤキ	樹高	9.2m
現況 (38 本)	枝張	7m	幹周	102.9cm	根元径	60cm
	植栽間隔	7m	歩道幅員/有効幅員	3m / 2m	植樹帯幅	0.7m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・根元径が植樹帯の幅に迫っており、根上がりがおきている ・多摩市内では数少ない単独樹である ・植栽間隔を上回る樹冠幅（枝張り）となっているが樹形の乱れは少ない ・樹勢は良好であるが、一部でキノコがみられるなど衰退の兆候がみられる ・車線の片側のみの植栽であり、うっそうとした印象は少ない ・歩道幅員が狭く樹木の成長に見合わないため、更新の際は樹種の再考が望ましい 					
評価	II. 今後、大径木化が一層進み、維持が困難になる可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・根上がり等の支障がある箇所について、植栽空間の拡大を図り、生育良好な状態を保つ（対応策 2） ※根上がり等の支障箇所について、現在の樹の外側もしくは樹の間に根系を伸ばしやすい碎石層を設け、その上は舗装仕上げを行い歩行空間とする ・根上がりが顕著な箇所や、上記対応が困難な箇所等から順次更新を図る（対応策 3） 					
状況写真						

表 4-10 改善モデル路線での改善例【低木が重複するなど植栽が過密で歩行空間が暗い、狭い】

路線名	5-39号歩線 落合地区		主要樹種	シラカシ	樹高	7.9m
現況 (62本)	枝張	6.0m	幹周	77cm	根元径	40cm
	植栽間隔	5.0m	歩道幅員/有効幅員	-m / 3+1.8m	植樹帯幅	1.0, 2.5, 3.0m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校に隣接する通学路であり、歩行者の通行が多い ・ 中央部に植樹帯があり、歩行幅員を狭めている ・ 中央の植樹帯については、アダプト団体管理の花壇が設置されており、地域のにぎわいに寄与している。 ・ 植栽間隔以上に樹冠が広がっており、隣接地への越境もみられるほか、暗い歩行空間の印象を受ける ・ 隣接地の植栽と重複するような列状・帯状の中低木の植栽がある ・ 中央部に植えられているエンジュについては、枯損により既に多くの街路樹を伐採済。残った街路樹についても、衰退が始まっている ・ アダプト団体数1 					
評価	Ⅱ. 植栽が多く、管理コスト増大の可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全・安心な歩行空間の創出を図るため、両脇の常緑樹を間引きする（対応策2） ・ 花壇設置をしている団体等と話し合いながら、中央の植樹帯のあり方を再検討する ・ 学校付近を中心とした植栽の再整備を行い、計画的な管理を行う（対応策3） 					
状況写真						

表 4-11 改善モデル路線での改善例【樹冠が隣接地に越境】

路線名	6-5号幹線	唐木田地区	主要樹種	ハナミズキ	樹高	5.0m
現況 (33本)	枝張	4.0m	幹周	44cm	根元径	20cm
	植栽間隔	7.5m	歩道幅員/有効幅員	3.5m / 2.5m	植樹帯幅	0.7m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹冠が広がり、隣接地への越境がみられるため、越境回避を含めた樹冠の整形・管理が望ましい ・ アダプト団体数 1 					
評価	Ⅲ. 管理次第でさらによくなる可能性					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有効幅員が確保できない箇所については、低木寄植の撤去を行う（対応策 2） ・ 将来を見据えた計画的な剪定を実施する（対応策 3） 					
状況写真						

表 4-12 改善モデル路線での改善例【中央部の植栽により歩行空間が狭小化】

路線名	6-10号歩線 鶴牧地区		主要樹種	シラカシ・エンジュ	樹高	3.5m
現況 (5本)	枝張	3m	幹周	72cm	根元径	30cm
	植栽間隔	1m	歩道幅員/有効幅員	7.3m / 3.0m	植樹帯幅	4.0m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への通学路であり、歩行者の通行が多い ・住宅地に隣接する形でシラカシが列植されている。 ・植栽間隔以上に樹冠が広がっており、隣接地への越境もみられる ・中央部にエンジュが植えられている植樹帯があり、歩行幅員を狭めている ・隣接地の遮蔽植栽と重複するような列状・帯状の中低木の植栽がある 					
評価	Ⅲ. 管理次第でさらによくなる可能性					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な歩行空間の創出を図るため、中央の植樹帯及び高木の撤去を行う（対応策2） ・将来を見据えた計画的な管理を行う（対応策3） 					
状況写真						

表 4-13 市民の関心の高い区間での改善例

路線名	5-2号幹線 豊ヶ丘、落合地区		主要樹種	モミジバフウ	樹高	11.7m
現況 (345本)	枝張	6.0m	幹周	116cm	根元径	50cm
	植栽間隔	6m	歩道幅員/有効幅員	2.4m / 1.5m	植樹帯幅	0.6m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・樹冠が広がり隣どうしの枝が接触しており、枯枝や落枝が発生しやすくなっている ・根元径が植樹帯に迫っており、根上がりがおきていることから、根は隣接法面まで伸びている可能性がある ・車両通行を妨げずに一車線でおさまる規格の高所作業車で管理可能な高さ 10~12m を超えている ・樹勢の衰退が一部で見られる ・狭い歩道幅員に対し、樹木の成長が見合っていない ・市民の関心が高い区間である ※現行プラン重点管理路線「⑥上之根大通り」 					
評価	Ⅱ. 今後、大径木化が一層進み、維持が困難になる可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・根上りを生じている場合、隣接木との樹勢比較を行い劣勢であれば伐採し、優勢な木の生育を図る（対応策2） ・樹高を下げて管理しやすくするために、切り戻し剪定を行う（対応策2） ・根上りに至る前で生育良好な木を対象に植栽空間の拡充を行う（対応策2） ※現在の樹の外側もしくは樹の間に根系を伸ばしやすい砕石層を設け、その上は舗装仕上げを行い歩行空間とする ・衰退が目立つようになった段階、もしくは大型の高所作業車で管理が難しくなった段階（約20m）で、更新を図る（対応策3） ※将来的な更新の検討におけるモミジバフウの再導入にあたっては歩道幅員が狭すぎることに留意が必要であり、地域との情報共有、意見交換を行う ・上記改善策を講ずるまでは、支障枝や危険木の伐採、根上がり箇所での根系切断を行う（対応策1） 					
状況写真						

表 4-14 市民の関心の高い区間での改善例

路線名	6-1号幹線 鶴牧地区		主要樹種	メタセコイア	樹高	18.0m
現況 (114本)	枝張	10.0m	幹周	121cm	根元径	60cm
	植栽間隔	6.0m	歩道幅員/有効幅員	5.3m / 3.0m	植樹帯幅	2.0m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹冠が広がり隣どうしの枝が接触しており、枯枝や落枝が発生しやすくなっている ・ 根元径は植栽帯幅が広いので根系の広がりに余裕がある ・ 車両通行を妨げずに一車線でおさまる規格の高所作業車で管理可能な高さ 10~12m を超えている ・ 樹勢の衰退が一部でみられる ・ 市民の関心が高い区間である ・ アダプト団体数 1 <p>※現行プラン重点管理路線「⑧メタセコイア通り」</p>					
評価	Ⅱ. 今後、大径化が一層進み、維持が困難になる可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接木との樹勢比較を行い劣勢であれば伐採し、優勢な木の生育を図る（対応策 2） ・ 樹高を下げて管理しやすくするために、切り戻し剪定を行う（対応策 2） ・ 学校のみどりと重複して鬱蒼としている箇所があるため、管理者間で調整を行い、緑量の適正化について検討を図る。（対応策 2） ・ 植栽配置の見直し検討を含め、衰退が目立つようになった段階、もしくは大型の高所作業車での管理が難しくなった段階（約 20m）で、更新を図る（対応策 3） <p>※更新検討では、メタセコイアが大径木化する樹種であることについて、地域との情報共有、意見交換を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記改善策を講ずるまでは、支障枝や危険木の伐採、根上がり箇所の根系切断を行う（対応策 1） 					
状況写真						

表 4-15 市民の関心の高い区間での改善例

路線名	乞田川沿い		主要樹種	ソメイヨシノ	樹高	5~10m
現況 (544本)	枝張	4.0~12.0m	幹周	30~240cm	根元径	15~90cm
	植栽間隔	8.0m	歩道幅員/有効幅員	3.6~4.6m / 2.0~3.5m	植樹帯幅	0.7~1.3m
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・樹冠が広がり隣どうしの枝が接触しており、枯枝や落枝が発生しやすくなっている ・サクラは傷から腐朽が入りやすい樹種のため、隣どうしの枝の接触は回避することが望ましい ・根元径が植樹帯幅に迫っており、根上がりもおきている ・樹勢の衰退が一部でみられる ・市民の関心が高い区間である ・アダプト団体数 1 <p>※現行プラン重点管理路線「③乞田川沿いサクラ」</p>					
評価	II. 今後、大径木化が一層進み、維持が困難になる可能性大					
考えられる改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・衰弱木の伐採、生育良好で柵いっぱいの木々の植栽空間の拡充（対応策 2） ※根上がり等の支障がある箇所について、現在の柵の外側もしくは柵の間に根系を伸ばしやすい碎石層を設け、その上は舗装仕上げを行い歩行空間とする ・平成 29 年度の街路樹診断結果をふまえた定期的な調査・観察により、危険木化した樹木の早期発見を図る（対応策 2） ・植替え樹種の検討や、衰弱木からの順次更新を図る（対応策 3） ※更新の検討では、樹種を選択も含めて、地域との認識共有や意見交換を行う ・上記改善策を講ずるまでは、支障枝や危険木の伐採、根上がり箇所の根系切断を行う（対応策 1） 					
状況写真						